

# 図書館ひろば



## 第8回「図書館ひろば」開催

11月27日(日)相模原市立図書館にて「第8回図書館ひろば」が開催されました。空模様が心配されましたが、雨もひろばが終了するまで待っていてくれて、幸運でした。

今年初めての古本市は、本の集まり具合や来場者の数など心配しましたが、約2500冊の本が並べられ、約200人の来場者があって、800冊余りをお持ち帰りいただきました。

そのほか、視覚障害者サービスから「録音体験」「点字体験」「拡大写本展示」、壊れた本を手際よく直していく「本の修繕実演」、オリンピックのクイズに調べて答える「らぶリン

ピック」、難しい作品に挑戦していた「折紙コーナー」、お子さんから親御さんまで大人気の「布えほん・布おもちゃの展示とおはなし会」などイベントが盛りだくさんでした。

また、今年はPRに、相模女子大の学生24名が参加して、ポスター、チラシ、プログラムの作成や、会場の案内表示、古本提供のお礼品など、大活躍でした。

ご来場くださいましたみなさま、ご協力いただきました参加団体、相模女子大学、市立図書館職員のみなさま、ありがとうございました。



## ひろば 参加団体 感想

### 録音奉仕会ひばり

相模原市録音奉仕会では、

- ・音声訳体験
- ・視覚障がい者が利用している  
CD(情報)の試聴
- ・録音奉仕会の活動紹介

以上の3点を中心に「体験コーナー」を担当しました。より多くの皆様が体験に来て下さることを願っています。

### 点訳赤十字奉仕団

点字体験コーナーを担当しましたが、全体に参加者が少なく、中でも幼児を連れた若い母親は「やってみたいけど小さい子が一緒だから無理」と体験しないで帰ってしまいました。この時期、小・中学生は行事が多く、又、学校で体験しているのでめずらしくないのかもしれませんが。多くの人に目を向けてもらえる様な工夫が今後の課題だと思います。

### 拡大写本赤十字奉仕団

図書館ひろばに初めて参加。「『拡大写本』ってなあに？」という方が殆どでした。でも、本好きという節にかかっているせいか、皆様熱心に質問して下さい、こちらも懸命に説明。次回は、実習を準備する事も考えています。

### 認定 NPO 法人らいぶらいぶ

らいぶらいぶは『らぶリンピック〜リオ・オリンピックに続こう!』と題し、オリンピックの歴史や種目に関する調べるクイズに挑戦、本だけでなく最近の情報は新聞を使って調べるなどしました。全問正解し、金メダルをかけてもらった子どもたちはとてもうれしそう、私たちも楽しい時間を過ごしました。

### おはなしワニーズ

開場と同時に、男の子が「ヘビに会いに来た!」と言って飛び込んできました。大きな2匹のヘビのぬいぐるみは、たまごの中で寝ていました。早速出して乗ったり、首にまいたり、抱えたり、引っ張ったり、思いっきり遊びました。午後の子は、ヘビと一緒にたまごの中にもぐりこみました。人気者のヘビさんでした。

## 古本市 報告

寄付された本の冊数 2724 冊

来場者と持ち帰り冊数 180 人/881 冊

寄付金合計 23189 円

相模原市へ全額寄付いたしました  
ご協力ありがとうございました。

## 相模女子大学 コラボレーション

今回のひろばでは、ポスター、チラシ、プログラム、SNS 発信、図書館内の装飾、古本提供者への ThanksPresent 作成を相模女子大学司書課程の学生さんに担っていただきました。



## 司書課程による地域連携活動の意義

相模女子大学司書課程 准教授 宮原志津子

近年、大学の地域貢献や地域連携活動が全国的に広がりを見せている。その背景の一つが、平成18年に改正された教育基本法である。「大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」の条文を受けて、従来の「研究(知の蓄積)」、「教育(知の継承)」に加え、「地域貢献(知の還元)」が大学の使命に据えられたのである(京都府立大学京都政策センター「大学・地域連携のあり方に関する調査研究報告書」2015年, p. 6.)。自治体と大学との連携も各地で行われており、たとえば相模原市では相模女子大学の他市内の多くの大学と包括連携協定を結び、地域の課題解決や活性化などの協働プロジェクトを進めている。

相模女子大学の地域連携活動は、「日本ぜんぶをもうひとつのキャンパスにする」のキャッチコピーを掲げ、北は北海道から南は福岡まで全国各地で行っている。全国751の国公私立大学を対象に実施された調査をもとにした、「2015年度地域貢献度ランキング」では、全国女子大学で5年連続第1位を獲得するなど(『日経グローバル』日本経済新聞社, No. 281.)、近年精力的な活動を展開している。

筆者は元公共図書館員であり、司書は図書館利用者である市民によって育てられるということを実務経験から学んできた。公共図書館は、地域の教育、文化、情報の拠点であり、サービスの提供には常に地域住民の特性やニーズ、課題を考慮することが求められる。大学教員に転じた際、教室で講義するだけでなく、地域のあり方や図書館や利用者の存在

を学生に感じさせながらの司書教育を行いたいと考え、授業内容を工夫してきた。2年前からは、図書館や地域の課題について、学生の発想力・企画力を活かしつつ、解決に向けて一緒にアクションを起こす授業(「図書館基礎特論」)を始めた。この「協働プロジェクト」は、相模大野図書館のヤングアダルト・サービスの活性化事業から始まり、今年の図書館ひろばにおける「図書館と市民をつなぐ会・相模原」への協力につながった。

今回学生が行ったのは、図書館ひろばの広報、館内装飾、お礼の品の制作である。9月の授業開始から約二か月という短い期間であったが、精力的に取り組んでくれた。学生にとっても、職員とは違う立場で図書館を応援する「つなぐ会」の活動は、大いに刺激になったようである。

司書課程で学び、資格を取得しても、卒業後に図書館へ就職する学生はわずかである。しかし職に直結しないからと言って、学んだことが無意味になる訳ではない。地域連携の活動によって、学生は市民こそが図書館を支える立場にあることを学んだはずである。一利用者としてサービスを楽しむだけでなく、一市民として図書館を応援することができるということを理解し、実践していくことが、司書課程の地域連携活動の意義なのである。

今回の取り組みの報告が相模女子大学ホームページにアップされています。

つなぐ会相模原 × 相模女子大学  
協働プロジェクト



## 学校図書館学習会 報告

2016年10月15日(土)相模原市立上溝中学校にて、「学校図書館学習会」が開催されました。今回のお題は「蔵書構築をするって?」。ワールドカフェ形式で話し合いました。

第1ラウンドは、学校図書館法、SLAの選書基準など、基本を押さえました。「キホンも大事だけど、それにとらわれ過ぎても…」「蔵書の達成率や分類比率を意識して」という声がかかりました。

第2ラウンドは教科に関する資料について。「学校図書館の存在意義となる資料収集」「郷土資料収集」というキーワードが模造紙に書かれました。



第3ラウンドは読書に関する本。「ベストセラー(子どもたちが読みたい本)」とロングセラー(読ませたい本)、この間をつなぐのが「学校司書」と学校図書館に人がいる大切さが語られました。3ラウンド話し合った後、各グループで選書基準を明文化しました。



基準を言葉にすることで、「本当に大切なことを再確認した」「優先順位を考えて、利用してもらえる図書館にしていく」「図書館の存在意義を考えた」という感想をいただきました。

### 図書館と市民をつなぐ会・相模原 会員募集中!

一緒に活動していただける正会員を募集しています。

また、賛助会員として協力していただける方も募集しています。

年会費 正会員 1000円(学生500円)

賛助会員 1口 2000円



### 編集後記

今年の「図書館ひろば」は、古本市や相模女子大学とコラボレーションなど、新しい取り組みに挑戦しました。また古本市で寄せていただいた寄付金を相模原市へ送ることもできました。こういった取り組みで図書館と地域がもっともっと繋がっていければと思いました。(Y.N.)

図書館ひろば 第15号 2016年12月25日発行

〒252-0302 相模原市南区上鶴間4-23-3 Tel 090-4947-7147 (代表 山本)

Email info@toshokan.org ホームページ <http://toshokan.org/>